

特定非営利活動法人 まあるい心ちゃれんじどの応援団



業務内容 製造業

創業 2004年

従業員数 25名

所在地 高知市朝倉己785-6

障がいのある方でも使える、 わかりやすいシステム作りを一から構築！

チャレンジド（障がい者）が地域に生きる一員、社会中の働き手として、十分活躍できる力を備えていることを多くの人に知ってもらいたいという使命から設立。洋菓子・パン・ジャムの製造部門においてISO22000や、HACCP管理の独自のデジタル化により、作業効率の改善や人手不足の解消、トラブル時の原因究明を実現しました。



Q 御社のデジタル化の取組内容について教えてください。



弊社ではHACCP管理を、手書き用紙からハンディターミナル入力によるデジタルでの記録に移行しました。原材料の入庫日や賞味期限のQRコード®化、原材料使用量・作業日時・作業者名のハンディターミナルを介した記録、その後のデータ管理まですべてデジタルで一元管理しております。導入当初は、こういった管理を高知県内でデジタル化した前例がなかったので、障がいのある方でも扱える仕組み作りを念頭に構築を練りました。

Q 抱えていた課題と、デジタル化に取り組んだきっかけを教えてください。

今でこそ、障がいのある方に理解のある世の中になってきましたが、昔は個性と捉えられずに厳しい視線を向けられることも多くありました。そこで、第三者が定めた基準である、ISO22000やHACCP管理を導入しました。すべての物に対して常に記録が必要になり、手書き管理では、時間がかかることや記入ミスのリスクがあったことから、デジタルで管理しようと思い立ったのがデジタル化を推し進めたきっかけです。



Q デジタル化に成功した秘訣を教えてください。

とにかく、ハンディターミナルをわかりやすく、操作しやすくすることを軸にシステムを考えました。加えて、20～30代の利用者さんがスマートフォンの利用などからデジタルに慣れていたこともあり、想定していたよりもスムーズに導入から利用まで進めることができました。今では70歳以上の方も機械を使いこなしています。記録者の名前も残るので、責任感を持つことにも繋がったと思います。



デジタル化導入までの 期間とプロセス

- 2015年よりシステム導入検討
開発期間2年を経て
2017年より実稼働

導入にあたっての人材確保 (ITベンダー含む)

- 社内の職員が対応

導入したITツール

- ハンディターミナル
- スクラッチ開発によるシステム構築

支援機関、補助金等の 活用の有無

- 高知県市場対応商品開発等事業費補助金
- 社会福祉法人清水基金
- 公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団

受賞にあたって

2021年より、食品を取り扱う事業者のHACCP管理が必須になりましたが、高知県内でも記録をデジタル化しているところは少ないと思います。業務時間の短縮や環境改善の観点から、このシステムは有用だと自負しておりますので、こうして評価していただけてうれしい限りです。

これからデジタル化に取り組みたい事業者様へ

障がいのある人が働く現場でもデジタル活用が可能であり、誰もが安心して働ける持続可能な職場づくりにつながることを社会に示した点で、大きな意味を持っています。就労支援の現場で、障がいのある方にデジタルは「使えないだろう」という固定概念を捨て、一歩踏み出してみてください。システムについても、私がお力になれることがありましたら、お話しできますのでぜひ気軽にご連絡ください。



理事長
杉野 修氏

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です